

大谷九右衛門船頭口上之覚

一 伯州米子を二月十五日^ニ出船仕、同十七日之朝雲州
雲津へ参着仕、三月二日^ニ雲津を出船仕、隱岐国
嶋前はし村へ同日^ニ参着仕、三月九日迄同国^ニ逗
留仕、翌十日^ニ嶋後福浦へ参着仕申候、卯月十六日^ニ
福浦を出船仕、同十七日之八ツ時分^ニ竹嶋之内とう
せんが崎へ参着仕、島へ上り見申候得ハ、めのは大分
ほし有之^ニ付不審^ニ奉存近辺を見申候得ハ、唐
人之わらち有之^ニ付^而弥無心元奉存候へ共、日暮^ニ
及候^ニ付、其夜ハ其通^ニ捨置、明ル十八日^ニはし舟^ニ
加子五人私共武人以上七人乗、西之浦を尋候へ共唐
人見^ヘ不申^ニ付、それより北浦へ参見申候^{ヘハ}、唐船壹艘
すへ、こやかけ仕唐人壹人居申候、こや之内を見申候^{ヘハ}
鮑めのは大分取上ケ有之^ニ付、彼唐人^ニ様子相尋
候^ヘ共、通シ^ニ無御座^ニ付^而わけ聞^ヘ不申、右之唐人
はし船^ニ乗せ大てんくと申所へ尋参候得ハ唐人
拾人計猶仕居申候内、通シ壹人居申候故此方之はし舟^ニ
乗せ前^ニ北浦^ニ而^乘候唐人ハ舟より上ケ、外^ニ壹人以上
武人乗様子相尋申候得ハ、通シ申候ハ三月三日^ニ
此島へ猶可仕と存参着仕候由申候、船ハ何艘乗
参候哉と相尋候得^者 三艘^ニ人數四拾武人乗
参由申候、竹嶋之儀荒磯故此方之舟無心許
奉存、武人之唐人乗せ此方之元船へ戻り申候
右之唐人つれ戻り申候子細ハ、去年も此島に
唐人居申^ニ付、重^而此島へ渡り猶いたし候儀
堅無用之段おどししかり段々申聞せ候處
亦當年も唐人猶仕居申^ニ付、加様^ニ御座候^{ヘハ}
已後島之猶可仕様も無御座、別^而迷惑^ニ奉
存、乍恐何とそ御断可申上ためと奉存、右之
唐人武人召連卯月十八日^ニ竹嶋を出船仕、隱
岐国福浦へ同廿日^ニ参着仕候、然處^ニ隱岐国
御番所^ニおいて私共被召出、唐人之口上書上候
様^ニ被仰付候故私共申候ハ、則唐人居申候間御直^ニ
御聞被遊候様^ニ申上候得^者尤之由御意被成、唐人被召出
様子御聞被成、其上^ニ所々庄屋共出合、唐人之

口上書上申候、私共ハも右唐人之口上書ニ判仕候
様ニ御意被成候ハ共ニ達ニ御断申上判形不仕候、其後ハ

御番所より唐人ニ酒壺樽被遣候、同廿三日ニ

● 嶋前ヘ参着仕、同廿六日嶋前を出舟仕

福浦を出舟仕● 同廿六日之昼雲州長濱へ参着

同廿七日ニ米子へ入津仕候

舟頭 黒兵衛

同 平兵衛

西ノ卯月廿七日